２．コンピュータの技術要素

２．３　情報セキュリティ（情報セキュリティ管理）

問題１

情報セキュリティの文書を詳細化の順に、右の図のように上から並べた場合、①~③に当てはまる用語の組み合わせとして、適切なものはどれか。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ① | ② | ③ |
| ア | 基本方針 | 対策基準 | 対策実施手順 |
| イ | 基本方針 | 対策実施手順 | 対策基準 |
| ウ | 対策基準 | 基本方針 | 対策実施手順 |
| エ | 対策基準 | 対策実施手順 | 基本方針 |

問題２

情報セキュリティにおける“可用性”の説明として、適切なものはどれか。

ア：　システムの動作と出力結果が意図したものであること

イ：　情報が正確であり、改ざんされたり破壊されたりしていないこと

ウ：　認可された利用者が、必要な時に情報にアクセスできること

エ：　認可されていないプロセスに対して、情報を非公開にすること

問題３

ISMSの運用において、監査結果をインプットし、ISMSを継続的に改善するための是正処置及び予防処置を行うプロセスはPDCAサイクルのどれに当たるか。

ア：P

イ：D

ウ：C

エ：A

問題４

リスクマネジメントにおいて、リスクを資産ごとに洗い出すものはどれか。

ア：　リスク対策

イ：　リスク特定

ウ：　リスク評価

エ：　リスク分析

問題５

　組織で策定する情報セキュリティポリ氏に関するk医術のうち、最も適切なものはどれか。

ア：　情報えきゅりてぃ基本方針だけでなく、情報セキュリティに関する規則や手順の策定も経営者が行うべきである。

イ：　情報セキュリティ基本方針だけでなく、情報セキュリティに関する規則や手順も社外に公開することが求められている。

ウ：　情報セキュリティに関する規則や手順は組織の状況にあったものにすべきであるが、最上位の情報セキュリティに基本方針は業界標準のひな型をそのまま採用することが求められている。

エ：　組織内の複数の部門で異なる情報セキュリティ対策を実施する場合でも、情報セキュリティ基本方針は組織全体で統一させるべきである。

問題６

　組織の活動に関する記述ａ~ｄのうち、ＩＳＭＳの特徴として、適切なものだけを全て、挙げたものはどれか。

ａ：　一過性の活動でなく改善と活動を継続する。

ｂ：　現場が主導するボトムアップ活動である。

ｃ：　導入及び活動は経営層を頂点とした組織的な取り組みである。

ｄ：　目標と期限を定めて活動し、目標達成によって終了する。

ア：　ａ，ｂ

イ：　ａ，ｃ

ウ：　ｂ，ｄ

エ：　ｃ，ｄ

問題７

　ＩＳＭＳにおけるセキュリティリスクへの対応には、リスク移転、リスク回避、リスク受容及びリスク低減がある。リスク回避に該当する事例はどれか。

ア：　セキュリティ対策を行って、問題発生の可能性を下げた。

イ：　問題発生時の損害に備えて、保険に入った。

ウ：　リスクが小さいことを確認し、問題発生時は損害を負担することにした。

エ：　リスクの大きいサービスから撤退した。